

# 名手病院の心臓リハビリテーション

## 概要

当院では、心血管疾患を有する患者さんに対して心臓リハビリテーション（心臓リハビリ）を実施しています。2022年7月より、心臓リハビリ用トレーニングスペースを新たに設け、専用機器（心肺運動負荷試験装置）やリハビリ中にバイタルサイン（脈拍や心電図波形、動脈血酸素飽和度）を一元的に管理できるセントラルモニタリングシステムを設置しています。また、トレーニングスペースは天井が高く開放的な大窓を設置しているため、広々とした空間で心臓リハビリを実施しており、多くの患者さんが生き生きと心臓リハビリに取りくまれています。



## 心臓リハビリの紹介

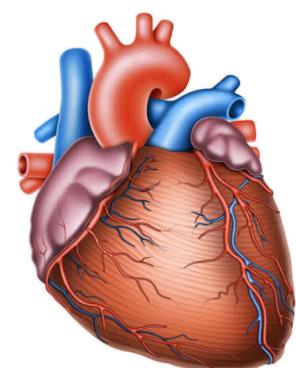
### 心臓リハビリとは？

心臓リハビリとは、心血管疾患（心不全・心筋梗塞・心臓手術後など）を有する患者さんに対して、運動耐容能改善・生活の質（QOL）向上・早期社会復帰を目指すとともに、再発や再入院の防止・生命予後の改善を目的とする包括的心臓リハビリプログラムに基づいて実践されるリハビリです。心臓リハビリは、心肺運動負荷試験装置（CPX）を用いて嫌気性代謝閾値（AT）を算出し、その値から心臓へ過剰な負担とならないような負荷量を設定（運動処方）し、運動療法を実施します。

## 心臓リハビリの保険適応

心臓リハビリの保険適応となっているのは、以下7つの疾患群です。

- 急性心筋梗塞
- 狭心症
- 心臓外科術後：冠動脈バイパス術、弁膜症手術、心臓移植など
- 慢性心不全：1) 左室駆出率40%以下、2) 血液検査でBNP 80pg/ml以上またはNT-proBNP 400pg/ml以上、3) 最高酸素摂取量が基準値の80%以下、のいずれかの条件を満たす場合
- 大血管疾患（大動脈瘤、大動脈解離など）：大動脈瘤術後、急性大動脈解離術後など
- 末梢動脈疾患：足の動脈が動脈硬化で狭くなり、間欠性跛行（歩くと足が痛くなる）がある場合
- 経カテーテル大動脈弁置換術後：重症の大動脈弁狭窄症に対するカテーテル治療のこと



## プログラム

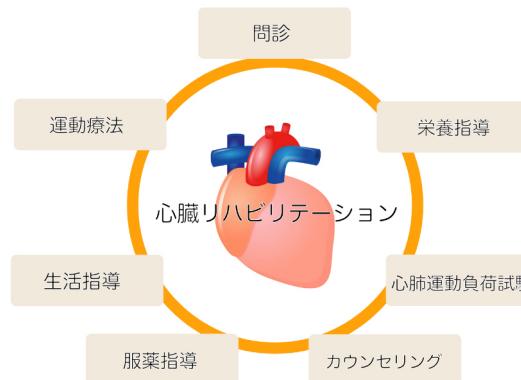
### 包括的心臓リハビリ

#### 運動療法

本プログラムでは、CPXの結果（AT値）を参考に患者さんの年齢や体力、心機能に合わせて、適した運動強度や運動時間を見定め、医療スタッフによるモニタリングのもとでトレーニング（エルゴメーター、筋力強化運動）を実施します。さらに、自宅での運動療法の方法や注意点についても指導を行います。

#### 生活指導

本プログラムでは、患者さん自身の疾患や健康状態について理解を深めていくことも重要目標と考え、心血管疾患の原因や治療方法についての説明、食事療法（栄養士による栄養指導）や日常生活での注意事項について指導も行っています。



### 心臓リハビリの効果

### 心臓リハビリを実施することでえられる効果



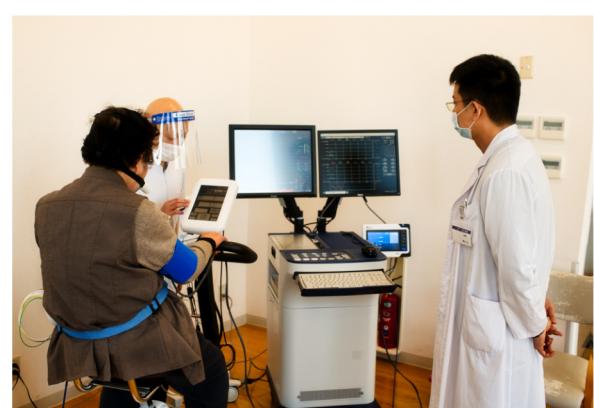
心臓リハビリにより色々な面において改善する効果があります

- ①心血管疾患による再入院や再発/死亡率が低下する
- ②動脈硬化へ影響を与える因子（血圧、血糖値、脂質）の状態が改善する
- ③運動能力が増加し、楽に動作ができるようになる
- ④精神面に好影響を与える
- ⑤血管内皮機能や自律神経の働きが改善する

### 留意事項

### 危険性（合併症）について

非常に低率ではあります（リハビリ1時間あたり1/5万～1/12万）が、運動療法中に心事故（心臓発作、致死性不整脈、血圧低下など）が起こる可能性があります。その対策として、当院の心臓リハビリ用トレーニングスペースには救急機器や緊急薬剤が常備されております。さらに心臓リハビリ中は医療スタッフが常時モニタリングしており、緊急時には速やかに対応するシステムが構築されています（連携施設：和歌山県立医科大学附属病院）ので、安心して心臓リハビリに取り組んで頂けます。



当院では専門のスタッフが万全の体制でサポートさせていただきます  
ご希望の方は是非お声かけください